

No.2615

三十三間山（824m） 関西百名山

日 時：6月17日（日）晴

参加者：鳴原（L）大西、右田、宮本、高石（記）

梅雨の中休み、晴れ間に恵まれ（しかも快晴）7:30 鳴原車にて新大阪を出発。名神～湖西道路～R303～R27と順調に進み、駐車場着。すでに10台近い車が駐車していた。

9:40 準備を整え出発。5分程進むと金網柵で獣除けの扉が設けてあった。杉林の中を進み、分岐で右手の沢沿いの道を進む。最後の水場で10:13左へ。ここからつづら折れのきつい斜面を登る。谷筋を離れるとさらに登りはきつくなる。杉林が雑木林に変わると、明るくなり夫婦松着11:00。切り株にきのこが寄り添って、こちらを見ている。ほっこりし少し疲れが和らいだ気がした。ブナ林の中を進む。風神11:00直ぐ稜線に出る。といきなり熊笹を分けて吹く強風に迎えられ、まるで草原のような広場に出た。左方向に三方五湖や奥に若狭湾。右手にはヤマボウシの花が、白、淡いピンク、濃いピンクの三色で山肌を彩っている。空は真っ青！何とも言えない解放感！山頂までは、なだらかなS字状に延びた熊笹の中を進み12:00山頂着。山頂は眺望もないので三角点をタッチし草原まで戻り、風に遊ばれながら大休止。13:00 出発。 往路を下山し駐車場14:35着。

帰路途中で鯖街道の熊川宿をぶら～っと散歩（14:50～15:30）電線もなく、整備が行き届いていて、まるで時間が止まっているかの様な空間だった。あまりにも整備されすぎのような気もしたけれど。気分はすっかりほぐれ清々しい！ 途中渋滞して新大阪19:00着。解散。

鳴原リーダー長時間の運転お疲れ様でした。皆様お世話になりありがとうございました。

余話 三十三間山の山名の由来。京都の三十三間堂の棟木を伐りだしたところから名付けられたそうです。



三十三間山



ヤマボウシ



草原からの三十三間山